

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 27 年度第 1 回相模原市総合計画審議会			
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)			
開催日時		平成 27 年 5 月 1 5 日 (金) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 5 時 3 0 分			
開催場所		相模原市役所本庁舎本館 2 階 第 1 特別会議室			
出席者	委員	8 人 (別紙のとおり)			
	その他	0 人			
	事務局	8 人 (企画財政局長、企画部長他 6 人)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第	開会 1 議事 (1) 平成 27 年度の評価の実施方法等について (2) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 齋藤企画部長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 平成 2 7 年度の評価の実施方法等について

議事 1 「平成 2 7 年度の評価の実施方法等について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料 1 「平成 2 7 年度総合計画進行管理について」から資料 7 「総合計画進行管理年間スケジュール」までの説明が行われた。

議事 1 について、意見、質問をいただきたい。

それでは、まず私から申し上げておきたい。

資料 2 のサブ指標の設定についてであるが、サブ指標の名称は、できるだけ一言で市民にわかりやすい表現にしたほうが良い。

たとえば、新しく設定された「施策 8 障害者の自立支援と社会参加」のサブ指標名が「障害者総合支援法に基づき市が指定する特定相談支援事業所数」となっている。正確にはこの表現なのだろうが、例えば、「障害者支援事業所数」とか、「特定支援者事業所数」とか、もう少し一言で表現にした方が、市民に市が何を目標にしているのか、はっきり伝わるのではないかと思う。

「幼・保・小連携を行っている幼稚園・保育園数」も、これも、「幼・保・小連携幼稚園・保育園数」が良い。そういう面でもう少しわかりやすくしたほうが良い。

了承した。

2 点目としては、資料 2 (エ) だが、相変わらずサブ指標を設定できないものがある。

指標が設定できないということは、目標がありませんということになってしまう。「4 6 基地の早期返還の実現」などは、指標を設定しにくい施策ではある

が、市民意識調査の数字を掲げるなどのやり方もあると思う。達成は難しいかもしれないが、目標を持って施策を展開しているという姿勢を見せる必要がある。

同じくサブ指標の設定が困難な「4.1 広域的な交流を支える交通体系の確立」は、特定の地区が対象なのか。

特定の地区ではなく、広域的な視点である。

必ず目標設定はできるはずである。設定が難しい理由が何なのか、疑問である。

前回は同様の意見をいただき、施策所管課と調整したところである。

「4.6 基地の早期返還の実現」は、施策のめざす姿が「米軍基地が返還されている。」となっているが、その実現に向けての市の施策というと、「粘り強く要望していく。」ことになる。しかし、要望の回数が多ければ良いというわけではなく、数値で目標を設定することが非常に難しい。

「4.1 広域的な交流を支える交通体系の確立」だが、取り組みの方向のリニア中央新幹線の駅設置や小田急多摩線延伸などは、開通して初めて成果が出るもので、それに向けて様々な角度から協議をしているが、それを数値としてあらわすことが非常に難しい状況である。

たしかに、未確定な事業について指標を設定することは無理がある。

相模原市の公共交通網の構築を全体的に捉え、市民の移動に係る不便をなくしていくというスタンスで目標設定を考えればよいのではないかと思う。

基地についても、その苦情回数というよりも、市民アンケートの数値を使うのが妥当な感じがする。

困難だから設定しないということではなく、「継続して検討する施策」として、状況が変わった時点で、設定の可能性を再度検討すべきと考える。

検討、調整した結果、「設定が困難」とのことであるが、調整のプロセスが我々にはわからない。施策所管課の論理立てと企画部門との論理立てが行き違っていて「困難」となっているのであれば、第三者が入ることで方向性が見えてくる場合もある。もしそのような状況ならヒアリング等の場面で示してもらいたい。

その点は、審議会の部会ヒアリングに期待したい。私も施策所管課の指標に問

題があれば厳しく指摘するつもりである。いずれにせよ27年度の指標設定が困難な施策については可能なかぎり設定していただくことを期待したい。

了承した。

サブ指標を設定した施策について、設定した理由が全体的に良くわからない。例えば、資料5の「4 改善によって見込まれる効果」にサブ指標の設定理由が書かれていればわかりやすい。

その点については、資料4「施策進行管理シート」の成果指標の下にサブ指標が記載されている。ここで指標名と説明、なぜこの指標にしたのか、目標をどのように設定したのか記載させていただいた上で、評価していきたいと考えている。

資料4「施策進行管理シート」は、指標の説明と目的設定の考え方にとどまっている。根拠が示されていない。なぜこの目標設定にするのか。数値の目標がなぜ妥当性があるのかということを市民が納得するような形で示す必要がある。

資料4「施策進行管理シート」に例示してあるケースを見ると、指標1「延焼率」は目標値が25年に10.7になっているが、相模原の場合なぜ10.7で良いのか。一般に延焼率は、低ければ低いほど良いわけだが、100%達成する必要はないという考え方もある。問題の7～8割を是正すればよい場合もある。自治体の場合、財源の制約があり、他にもやらなければいけない仕事がたくさんある。そういうことを考えると、例えば、7～8割達成することを考えて目標設定する。前回の審議会でも限界値、充足値、期待値の3つの基準を申し上げたが、各施策の中で検討いただき、目標設定の考え方に根拠を示していただきたい。

了承した。

なぜ目標を設定したのかを示すことは、市民が見て分かりやすいということと、人事異動等で担当者が変わっても考え方が共有できる利点がある。自分たちのまちの問題を市民とともに解決する姿勢にもつながり、市民との協業、協働が一步前に出ると思う。

指標の設定については、これでも徐々に進化している。従来は、目標設定の考え方はなかった。

もう一步進化させるとすれば、指標設定の具体的な根拠を示し、施策全体の設計図の中で各指標がどういうポジションにあるのかなどを明確にしていくことが必要である。

資料2（ウ）サブ指標の設定（追加）の施策8番について就労移行率が3割ということだが、なぜ3割なのか。

今までの実績、トレンドで手の届きそうで届かない3割を目標設定にしたと聞いている。

障害にもいろいろな種類がある。3割という数字の根拠がわからない。

事務局で今の意見を受けて、確認したうえで指標設定していただくということではいかがか。

了承した。

成果指標の目標値を変更することはできなかったのか。既にクリアしているのに低い目標を設定していることに対し、前年度から課題として出ていた。

既に目標を達成している指標については、目標値を変えるのではなく、サブ指標を追加することで対応することになっている。

成果指標の目標が達成されているものは、補完するサブ指標を設定することとしている。

根本的な解決には、基本的な制度設計を変える必要がある。

現在の考え方は、成果指標の目標値は10年間変えないというものである。既に目標を達成している施策等の目標値をそのままにすることが、多くの人に納得されないということなのであれば、評価のサイクルをもう少し短くして、あるいは毎年でもいいと思うが、目標値を適宜変更しながら評価していく必要がある。

既に目標を上回っている指標は、そもそもの目標値が低かったのではないか、適正な設定であったのかという議論になってくる。私自身は、前回の審議会時も評価のスタイルを変えてみてはどうかと提案しているが、これについては、次の総合計画の主要課題のひとつになってくると感じている。

現総合計画は、審議会で長い間議論をいただき、パブリックコメント、議会説明等のプロセスを経て、指標と目標値を設定しており、ある程度の期間はそれを維持していきたいと考えている。

今年度は、2次評価のヒアリングが2巡目となり、3年前の2次評価との変化が明確になる。3年前と何が変わったのかがわかるように資料を作成していただきたい。どのような理由で変化したのか、その分析についても表現していただきたい。

了承した。

2次評価ヒアリング時に、審議会から指標設定に問題があるのであれば、指摘することになる。

成果指標の目標値は簡単に変えられないことを前提としながらも、2次評価ヒアリング時には、もう少し目標値の設定の根拠等を説明したほうがよい。

2巡目となる2次評価では、サブ指標の評価にプラスして、成果について積極的に表現してもらいたい。

資料4の進行管理シートの2ページ目の「施策を構成する主な事業の取り組み結果」に、成果を意識して記載されるものとする。わかりやすく市民生活にどういう成果があったのかをまとめてほしい。

総合評価に当たっては、熱意を持って表現していただきたい。自信を持って熱く語って欲しい。施策の評価は、市民に説明できてはじめて価値が出るものである。淡々とした事務的な報告ではなく、「こんなすごいことをやった。」という成果を報告して欲しい。

進行管理シートの「総合分析及び市の自己評価」欄が、それを表現する部分だ

が、単なる報告ではなく、表現を工夫していただきたい。

了承した。

サブ指標の設定が困難というのは、市民から見ると論外である。サブ指標は必要である。

施策39の広域交流拠点の形成は、めざす姿はあるべき姿である。

「まちの魅力が増しにぎわっている。」というめざす姿は、都市の交通量だけでは表現できない。例えば、通勤の便が良いということや、レジャー、商業等の要素が合計した形で表現できるとよい。

例えば、橋本、相模原、相模大野の交通量を時間帯、曜日で全部調べてみるとか、徹底的に調査すれば、それなりの数値目標が出てくる。

そして、その目標をなぜ設定したのか、メリット、デメリットを含め、説明がないと評価できない。

説明がないと「数字がおかしいのではないか」ということになる。

次回から新任委員になるが、理解するのに時間がかかると思う。

第2部会は、メリット、デメリットを含め、利害対立のあるものが多い。

「広域交通網を構築すると近隣住民が排気ガスで困る。」「産業立地を推進すると土地の所有者と近隣住民で利害が対立する。」など施策をどのように評価したら良いかととても難しい。デメリットを最小限に抑えて実施したという点も評価の対照となって良いのではないかと思う。

資料5の改善工程表の裏面であるが、例示にある「他指定都市の調査結果把握・分析」という表現は、横並びで良いという印象を与える。他の指定都市の状況よりも、相模原市の実態を把握する方が優先である。指定都市になってから、他の指定都市並みにすれば良いという思い込みが職員に出てきていると感じるが、そうではない。他の指定都市の事例もとても評価できないという実態が多く見られる。他の指定都市のまねをしていればそれで良いという意識になりかねないと感じている。

資料3「年度別の2次評価対象施策一覧」であるが、評価の低いものを優先しようという考え方はいかがか。A評価を取ったものは後に回し、B評価から始めるほうが、評価としては自然だと感じる。

基本的には過去3年間のサイクルを当てはめているが、いくつかの施策は、成果指標が何年かに1度しか出ないものがあり、サイクルを組み直している。

このサイクルで構わないが、評価の低かった施策を優先して2次評価を行うという姿勢を見せることも必要なのではないかと感じる。検討いただきたい。

了承した。

地方版総合戦略についてだが、総合計画との関係はどのようになるのか。

他の自治体では、総合計画と期間をあわせ、一体で策定する動きもある。本市では、あくまでも、市の最上位の計画は総合計画という考え方である。地方版総合戦略は、総合計画の範囲内で、新たに人口減少等に焦点を当てて、施策の組み直しや、庁内横断的に取り組むにはどうすれば良いかなど、新たな視点を加えながら検討していく形になる。

了承した。他に意見がなければ、議事を終了する。

閉会 齋藤企画部長

以 上

相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科		出席
2	長田 恵美子	公募		出席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科	副会長	出席
4	鈴木 敏彦	和泉短期大学児童福祉学科		欠席
5	長野 基	首都大学東京都市環境学部建築都 市コース・大学院都市環境科学研 究科都市システム科学域		出席
6	福地 弘道	公募		出席
7	藤川 まなみ	桜美林大学総合科学系		欠席
8	宮崎 幸男	公募		出席
9	森田 直子	公募		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席